



東地中海地域ニュース

イスラエル：アフリカ難民流入の増加

(6月20日付現地紙)

1. 6月19日深夜から未明にかけて、イスラエル治安部隊はイスラエルに不法入国したアフリカ出身者63名を逮捕した。この二日間で、約80名の不法入国者が流入している。
2. ここ数ヶ月間、アフリカ出身者によるエジプトからイスラエルへの不法入国が増加している。本年1月以降で、不法入国者約1,150名が流入し、そのうち過去6週間に約850名、先週には約210名が流入している。これらの不法入国者のうち、約3分の1がスーダンのダルフルからで、その他はコートジボワールやエリトリアなどからである。
3. 難民問題特別委員会議長であるバル・オン内相によれば、5月以降に流入した難民のうちの約半数がスーダンからで、そのうちの約4分の1がダルフル難民である。現在、イスラエルにおける難民及び亡命希望者の数は約2,400名で、このうちスーダン難民は約800名。又、イスラエルに流入した多くのスーダン人は、数年間をエジプトで過ごした者である。
4. エジプトのシナイ半島からイスラエルへの不法入国者流入増加には、以前に麻薬密輸に関与していたシナイ半島のベドウィンによる犯罪組織も関与している。エジプト経由で不法入国したアフリカ出身者の証言によれば、入国の為に一人当たり約500米ドルをこれらの組織に支払った由。
5. アフリカ難民流入問題は、エジプトからガザ地区への武器密輸問題に加え、イスラエル・エジプト関係の主要な争点になっている。イスラエル政府筋は、エジプトはアフリカ難民流入問題に関し、ラファハでの武器密輸問題と同様に何も取り組んでいないと述べた。数ヶ月前、オルメルト首相はエジプトのムバーラク大統領とソリマンGIS長官に対し本問題への取り組みを要請した。1ヶ月前にはカイロを訪問したリブニ外相もアブルゲイト・エジプト外相と本件を協議している。エジプトの回答は、「努力する」とのことであったが、その後も難民の流入は止まらぬのみならず、むしろ増加している。
6. 19日、駐イスラエルUNHCR事務所長は、イスラエルはスーダン難民をエジプトに帰らせるべきでないと述べた。他方、議会でダルフル難民問題のロビー活動をしている議員は、「流入数が増加すれば、イスラエル軍はエジプトに送還せねばなくなるであろう」と述べている。イスラエルは、難民に対する正式な立場を決めていないが、議員による難民に対する正式な立場を決めようとする動きがある。しかし、スーダン難民の中には仕事を求めて不法入国した者もいる為、難民の認定の議論が複雑化している。不法入国者流入増加の主要な要因として、イスラエル移民局にこれらを受け入れる場所が余っていないことなどが挙げられる。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799